

アラスカ材（オール新材）入港

6月19日に待ちに待った本年度アラスカ産材（スプルース・米ヒバ等）を積んだ第一船が大阪府岸和田港に入港しました。

去年に伐採した材の最後の船の入港は、本年の二月でしたので、まる四ヶ月振りの入荷になります。

商社の方が、現地に検品に出かけたのは、5月の連休後と聞いていますので、現地で原木を積んで日本に入って来るのに、僅か3週間で来た事になります。

ところで、原木価格は、凄く高騰しています。高騰する理由は、需給バランスが、非常にタイトになっているからです。日本の買い付け量が、

昔に較べるとかなり少なくなっていますが、中国・韓国のみならず、ベトナム・中近東からも買いに来ているのです。木材資源も他の天然資源同様、世界中で資源の取り合いが始まっているのです。



本当の環境問題には何が大事か

新聞とかテレビ等のマスコミでバイオ燃料が地球温暖化対策に有効ではと、多く報道されるのに、違和感を非常に感じます。その理由は新しい設備を大々的に作りそして石油を燃やした電気でバイオ燃料を作るのでは、本当にCO2削減に繋がるのでしょうか。今回のドイツサミットで2050年に排出されるCO2の目標数値が1990年に比較して50%のCO2削減が一応数値目標で掲げられましたが、今の社会システムで本当に数値目標がクリアーできるのでしょうか？

服部商店の環境問題への取り組み方は物を大事に長く使おうではないかと言うのが主なコンセプトです。その為には長く使える無垢の木材をふんだんに使った建築をして頂ける事が大事だと考えています。しかし弊社の保管している倉庫は最初の竣工から約20年経過しましたので少々痛みが生じています。又木材価格が高騰している現在、お客様に良質材を適正な価格で販売するのは至上命題になって来ていますので良質の木材の在庫を大事に保管する倉庫が必要不可欠になります。痛んだ倉庫では良質材を提供出来なくなってしまいますので本社の倉庫部分の第一回目のペンキ塗り替え工事を実施しています。

ところで服部新聞でも御案内しているパーフェクトコートと同工事でも塗布する事を決断しました。確かに少し金銭的には高く付きますが、耐久年数が約20年から約倍の40年近くに延びるのなら、安くなると考えたからです。

パーフェクトコートを塗布する事で、工事代金はおおよそ50%高くなりますが、次の工事が40年先ならかえって安くつくし、将来必要になる塗料（化石燃料）を節約出来て、環境問題にもプラスに繋がると思います。

服部商店としての環境問題解決の一番正しい方法は物を大事に長く使うと言うライフスタイルにする事です。なお服部新聞の発行の紙面の制作上パーフェクトコートを塗布した現場写真は来月号になります。

服部商店としての環境問題解決の一番正しい方法は物を大事に長く使うと言うライフスタイルにする事です。

なお服部新聞の発行の紙面の制作上パーフェクトコートを塗布した現場写真は来月号になります。

7月21日開催予定の服部商店勉強会に参加して頂ける方にはパーフェクトコートの別の面白い実験（木製品の白化現象を抑える）の途中経過も見て頂けると思います。



もはや南洋材は限界か？

インドネシア政府が木材の輸出に、制限を実施します。狙いは木材資源をもっと有効に使い、国民2億人の為に木材資源を大事に使おうと言うのが目的と伺えます。以前の新聞で2014年以降、天然林の大幅な伐採制限をします、と紙面で書きましたが、5年も早く事実上実施する様です。

ところで、15年ほど前に、製材品の輸出制限をしましたが、事実上色々なテクニックを使って、日本もインドネシア材を多く輸入をしてきました。

そのテクニックとは、ラフの板が輸出に制限が加えられると、最初はプレナを掛けて輸入をしました。そしてプレナ掛けも制限すると板のサイドに本サネの擬似加工を施しました。

それも規制すると二枚の板を、糊で引っ付けて所謂、ツーイン・ワンと言われる製材品にもしたりしました。

しかし今度の規制の実施は、事実上インドネシアの製材品はもう手に入らなくなる様な感じですか。と言うのは板の中が17センチ以下でないと、如何なる加工を施しても、輸出できないと言う規制だからです。

インドネシアの最初の規制の実施した15年位昔、ある上場している大手のドアメーカーは、商社と組んでインドネシアに日本向けのドア工場を作りましたが、思うように日本で、そのドアが売れず、又かなりの手直し等が発生して、採算が取れず、撤退したのです。そう言う事は、インドネシア政府も解っている筈なのですがね？

今回の規制の対象にならない唯一の商材が、有ります、それは集成材です。集成材と言う物は、あくまで主たる製材品を取って、その残材から作る事で、資源の有効利用になります。原木を製材する時から、全ての材を集成材にしたら、製材工場は採算が取れません。

こう言うインドネシア情勢を睨んで、マレーシア(サバ・サラワク州)にバイヤーが殺到しています。勿論アジア勢(日本・中国・韓国・ベトナム等)が大挙して押し寄せていますが、今回は以前とは全く違います。ヨーロッパ勢も大挙してマレーシアに殺到しています。

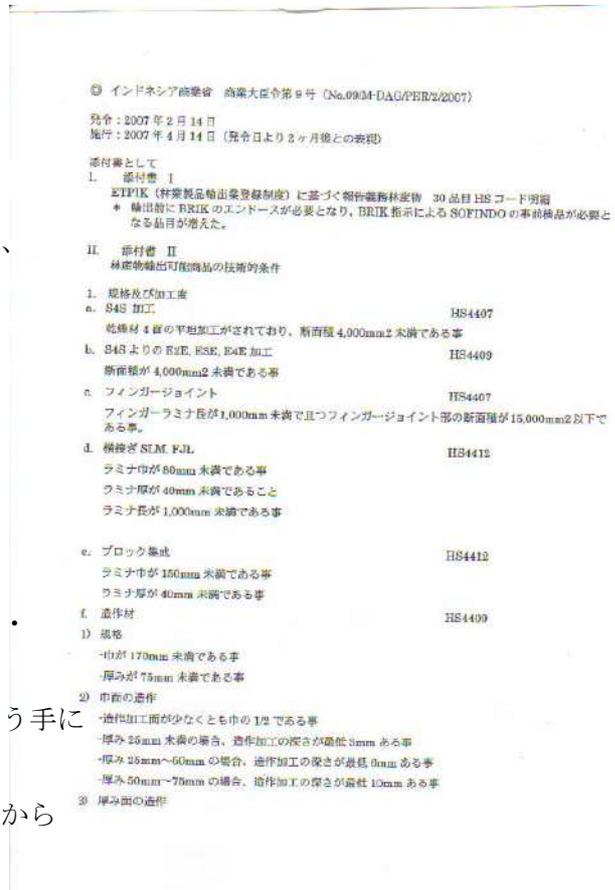
ヨーロッパは、ラワンの場合、今までは赤ラワン(レッド・メランティ)しか、買わなかったのですが、白ラワン(ホワイト・メランティ)迄、買いに入っているのです。そして買い付け単価が、凄く良い値段を提示しているのです。

ヨーロッパ勢は、ユーロ高の為に有利に買い付けは出来る状況に有ります。しかし為替の有利差は約15~20%です。しかし現地も然る者でして、現地のFOB価格を約15~20%上げているのです。日本勢は目安・国内のデフレの為に買い負けしているのです。

右の写真は、服部商店に有るチーク材の優良原木ですが、一本単価150万円です。長さ5.7メートルの直径84センチの大径原木です。この一本は15本のロットから商社に頼んで、抜かさしてもらった物です。残った14本は、低質材ばかりです。曲がりくねったり、トラが有ったり、節も多く、傷が多い原木ばかりです。

チークの港頭価格は約50%上昇しています。これから国内の販売価格は大幅な上昇が予想されます。

(チーク材で安い価格の材は、はっきり言って盗伐です。正規ルートでは有りません)



頑張ってください東京大学・優良材を子孫の為に残してください。

株式会社 服部商店 服部雅章様

このたびは、大変示唆に富む新聞をお送り頂きました。たいへん勉強になりました。ありがとうございました。

このたび、銘木市への本演習林の出品について、内部向けにデータをまとめていたところ、この春の植樹祭の余興として、それを発表する準備をしなければならなくなりました。植樹祭の余興ともなると製材のプロを前にしての事態ですので、不明な点や思い違いの部分をできるだけ解消するため、今回の情報提供をお願いしたところでした。幸いにも余興としての発表は中止になりましたが、貴重な情報をいただきましたので、内部での発表の後に適当な雑誌に投稿させて頂こうと思っております。その節は別刷りをお送りし、ご指導を賜りたいと存じます。

さて、北海道の広葉樹資源が枯渇する中で、本演習林は 50 年間、上層の衰勢木を切って若いこれからの木を残す「林分施業法」を続けて参りました。おかげで国有林と比較すると、有用広葉樹が残る北海道では唯一の森林になっています。しかし、大学法人となる前後から、取入に対するノルマが厳しくなり、この数年で目に見えて銘木が消滅しつつあります。

昨年 11 月に東京芸術大学彫刻科からカツラの依頼がありました。本演習林にはカツラはあまりないので、広葉樹専門の業者に全道から探し出してもらうようお願いしたのですが、予算の制限もあって入手困難と断られました。本演習林を手を尽くして探しましたが、心腐れのないものはアオガツラばかりでした。打診により心腐れのないものを伐倒しましたが、所々に変色斑が出てきました。切り口の写真を送って、了解の上お買いあげいただきました。試験研究と資源の保存の板挟みに悩む状態です。

今ひとつ憂慮していることとして、北海道の民有カラマツ林が、ここに来て急激に皆伐される事態になっています。林材新聞によりますと今年の伐採予定は、4000 ヘクタールで植栽予定は 2000 ヘクタールとのことです。富良野市の民有林の場合、当初は農家の方々が数ヘクタールずつ分けて所有し道政の指導でカラマツを植えました。間伐材は売れず皆が道政を批判しました。ここにきて、針葉樹合板の技術普及によりカラマツが売れる日が到来しました。これをチャンスととらえ、間伐をして農家が潤えば良いのですが、実際は、お荷物だったカラマツ林をここで売り抜けて離農したい（どうせ後継者がいないので）と考える向きが多いのです。

待ったなしの温暖化対策として、木材のリサイクルは不可欠になると考えられ、そのためにはツキ板よりも無垢の方が優れています。まだ個人的な発想の域をでませんが、木材が製品として使い回されても光彩を失わないためのトレーサビリティのあり方・表示法を思案中です。

今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

東京大学北海道演習林生産販売係 岡村行治

服部商店の常務・後藤憲彦が北海道の旭川の銘木市で、官材のセンの原木を去年の 12 月に買い付けましたが、それが偶然東京大学の演習林から、伐採された材だったのです。

先月の終わりに東京大学演習林生産販売係りの岡村様からメールを頂きました。その内容は落札したセン材の販売用途及び歩留まりに対する事でした。その質問に、弊社の常務が適切にお答えしました。

ところで、私は演習林の事は、昔から聞いていました。それは約 50 年昔、私の亡き父親（服部良昌）の話です。北海道にカツラの原木を買い付けに行くのに、木材のメッカの旭川に行かず、日高地方（静内・新冠）に行ったのです。その理由はカツラの良質原木は日高山脈の西側に多く有り、東側（帯広）にも有るが、良質材は少なく、又日高山脈の北側には、全く良材は無いと言う話でした。岡村様のお手紙にも書いてありますが、服部良昌のカツラの原木を買いに行った道は、正しかったと、つくづく思い知らされました。

（カツラのお陰で服部商店が有ります。カツラの碁・将棋盤の原盤・生産工場日本一が服部商店です。）

岡村様のお手紙にも一部書いてありますが、国産材回帰の事です。外材の値上がりで国産材が見直されると、NHK のテレビ番組でも取り上げられていましたが、今ある人工林の活用は、何とかなるでしょう。しかし伐採した後の事は全く報道していません。その後の事を、どうするかを、もっと日本国の国民に知らせなくて良いのでしょうか？

山と言う生き物は、一回人間が手を入れる（植林をする）と、放ったらかしにできないのです。その理由は自然の山は、樹種によって生い茂る場所が決まるのです。それが自然の法則です。その法則を捻じ曲げて山を利用する（人工林）と、余計な手間（間伐等の作業）が掛かるのです。アメリカ・ヨーロッパは、自然の恵みの増えた量、つまり成長量しか伐採しません。その方が、生態系も乱さず結果的に安く上がるのです。

（日本人は戦後植林した人工林を積極的に使い、その後は、自然の山に近い形の植林を行い、それから生み出されるリサイクル出来る無垢を使う事が温暖化防止の最善策です。）

父の姿を追って2000キロ



6月8日～10日の日程で沖縄に研修旅行に行ってきました。目的は亡き父服部良昌と母親の最期の旅行の先をもう一度辿ってみようと思ったからです。

亡き父と母親は2002年の5月に沖縄に行きましたが、その時は元気だったのですが、大阪に帰ってきてから、体調不調を訴え、暫く病院に入院して精密検査をしたのですが、中々原因が特定できず、病名が解ったのは、それから2ヶ月経った7月でした。そして病院で、開腹手術をしたら、かなり進行した膵臓がんとの宣告が医者から有りました。私と妹だけが、本当の事を知っていましたが母親には伝えませんでしたし、私自身も、奇跡の復活も有ると信じていました。しかし奇跡は起こりませんでした。

父と母が泊まったホテル（沖縄サミット会場）には予算的に泊まれなかったもので、近くのホテルに社員8名で宿泊しました。上の写真は守礼門の前で撮影したのですが、亡き父も同じ守礼門の前で母と写真撮影していました。今はあの世で仕事に頑張っている姿を見てくれて喜んでくれていると思います。

あなたのショールームにしてください。

現在服部商店の2Fの部屋の改装工事を進めています。紙面の製作上完成した姿の写真は今回の紙面ではお見せ出来ませんが、第二回服部商店勉強会に参加して頂ける方にはお見せ出来ると思います。是非、挙って参加して下さい。

又面白い仕掛けを、作った部屋に改装していますので、御利用して頂ければと思っています。

正式なショールームの御案内は次号の新聞で御案内します。

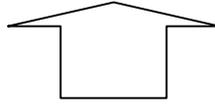
右の写真は床だけ改装した部屋です。壁も天井も全てオリジナルで製作しております。



服部商店勉強会の再御案内

第二回服部商店勉強会の開催を7月21日（第3土曜日）の日程で開催する予定で進めています。確定はFAXにて7月上旬に再度御案内致しますので、宜しく御願いたします。





FAX番号072-422-8577

第二回服部商店勉強会開催の再お知らせ

Q 1、 勉強会（原木の製材）の催しを平成 19 年 7 月 2 1 日の午後 1 時より行います。
参加できる方は、ご連絡下さい。

はい

いいえ

Q 2、 Q 1 ではいとお答えした方に。

参加される人数を御知らせ下さい。

—————名

御社名	
ご担当者名	
電話番号	
FAX番号	

株式会社 服部商店
大阪府岸和田市木材町16-1
TEL 072-438-0173
FAX 072-422-8577
担当 服部雅章

備考*先月号にて御連絡頂いている方も、念のためFAX下さい。